

三重県経済の現状と見通し<2024年9月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1	基調判断(前月比較)※2	
				詳細
総括判断	景気の現状			一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる 住宅投資に弱さがみられるものの、雇用・所得環境や観光は持ち直しているなど、持ち直しの動きがみられる。
家計部門	個人消費			足踏み 勤労者世帯・消費支出は、2か月ぶりの前年比増加
	住宅投資			弱含んでいる 住宅着工戸数は、6か月連続の前年比減少
	観光			回復傾向にある 外国人宿泊者数は、28か月連続の前年比増加
	雇用・所得			持ち直しの兆し 有効求人倍率(季節調整値)は、20か月ぶりの前月比上昇
企業部門	企業活動			持ち直しの兆し 鉱工業生産指数は、2か月ぶりの前年比上昇
	企業倒産			悪化しつつある 倒産件数は、3か月ぶりの前年比増加
	設備投資			持ち直しの兆し 民間非居住建築物着工面積は、2か月ぶりの前年比増加
海外部門	輸出			概ね横這い 四日市港通関輸出額は、13か月ぶりの前年比減少
公共部門	公共投資			持ち直しつつある 公共工事請負金額は、5か月ぶりの前年比減少
その他	物価			上昇している 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、31か月連続の前年比上昇

当面の見通し	物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
	個人消費の回復やインバウンド需要の拡大が期待される一方、欧米の金融政策動向や米大統領選など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

:晴、:晴～曇、:曇、:曇～雨、:雨、を示す。

※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、

:上方修正、:据え置き、:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)

したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 別府
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向：家計部門

個人消費	水準評価		⇒	詳細	足踏み
	基調判断	前月比較			

《現状》

- 個人消費は、足踏み。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、7月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+6.4%と2か月ぶりの増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同+10.6%と9か月連続の増加(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、7月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比▲2.1%、既存店ベースは同▲1.4%と共に2か月ぶりの減少(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同▲1.1%)が2か月ぶりに減少し、全体を押し下げ。
- 8月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,283台(前年比▲5.2%)となり、前年比で2か月ぶりの減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同▲7.0%)が5か月ぶり、小型車(同+▲8.1%)が2か月ぶり、軽乗用車(同▲1.7%)が2か月ぶりにそれぞれ減少。

《見通し》

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、8月の家計部門の水準は48.8と前月(49.5)から低下し、好不況の分かれ目となる50を5か月連続で下回った。2~3か月先の先行きに対する判断DIについては、47.7と前月(47.2)から上昇したものの、好不況の分かれ目の50を4か月連続で下回った。引き続き、インバウンドの回復に期待が持てる一方、物価上昇が懸念材料に。

◆7月 勤労者世帯・消費支出

- 310千円 前年比 +6.4% (2か月ぶりの増加)

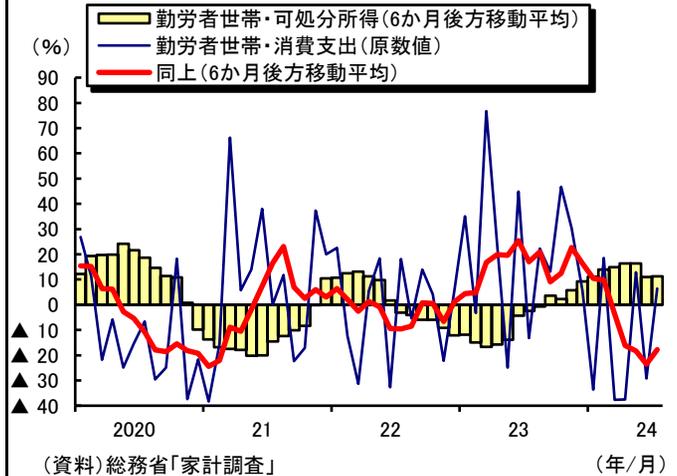
◆7月 大型小売店販売額

- 全店 前年比 ▲2.1% (2か月ぶりの減少)
- 既存店 前年比 ▲1.4% (2か月ぶりの減少)

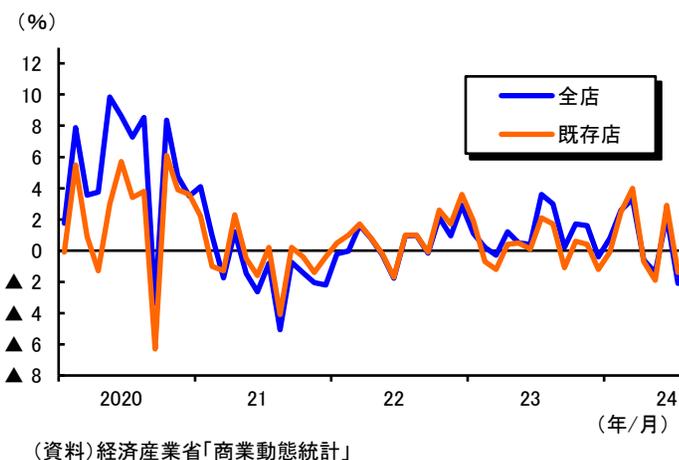
◆8月 新車乗用車販売台数<含む軽>

- 5,283台 前年比 ▲5.2% (2か月ぶりの減少)
- ・普通車 前年比 ▲7.0% (5か月ぶりの減少)
- ・小型車 前年比 ▲8.1% (2か月ぶりの減少)
- ・軽乗用車 前年比 ▲1.7% (2か月ぶりの減少)

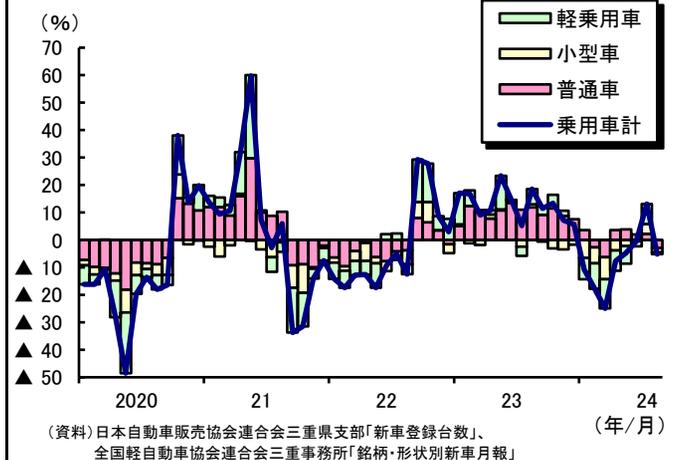
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	水準評価		☁️☔		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	弱含んでいる

《現状》
 ○住宅投資は、弱含んでいる。
 ○7月の住宅着工戸数は、732戸(前年比▲2.7%)となり、前年比で6か月連続の減少(図表4)。利用関係別にみると、分譲住宅(同+19.4%)が6か月ぶりの増加となったものの、持家(同▲7.7%)が3か月連続、貸家(同▲1.4%)が7か月連続の減少。

《見通し》
 ○先行きは資材価格の高止まりや人件費の高騰に伴う住宅価格の上昇、金融政策の変更に伴う住宅ローン金利の上昇懸念が住宅投資の抑制要因となる可能性も。

◆7月 住宅着工戸数

○ 732戸	前年比 ▲2.7%	(6か月連続の減少)
・持家	362戸	前年比 ▲7.7% (3か月連続の減少)
・貸家	278戸	前年比 ▲1.4% (7か月連続の減少)
・給与住宅	6戸	前年比 ±0.0% (横這い)
・分譲住宅	86戸	前年比 +19.4% (6か月ぶりの増加)

図表4 新設住宅着工戸数<前年比>

(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)

観光	水準評価		☀️☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	回復傾向にある

《現状》
 ○観光は、回復傾向にある。
 ○6月の三重県内施設延べ宿泊者数は、606千人泊(前年比+28.8%)となり、前年比で6か月連続の増加(図表5)。外国人宿泊者数は20千人泊(同+54.1%)と、前年比で28か月連続の増加。

《見通し》
 ○東海3県の知事と名古屋市、浜松市の市長が参加する会議が三重県明和町で開催。会議を開催した三重県の一見知事は三重県がコロナ禍前と比較したインバウンドの回復率が全国で最下位であることを課題として挙げ、来年開かれる大阪・関西万博などの機会に観光客に各県の観光地を回ってもらえるように呼び掛けた。

◆6月 県内施設延べ宿泊者数

○ 606千人泊	前年比 +28.8%	(6か月連続の増加)
・外国人	20千人泊	前年比 +54.1% (28か月連続の増加)

図表5 三重県内施設延べ宿泊者数

(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)

雇用・所得	水準評価		☀️☁️	
	基調判断	前月比較	📌	詳細
持ち直しの兆し				

《現状》

- 雇用・所得情勢は、持ち直しの兆し。
- 7月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.16倍(前月差+0.01ポイント)と20か月ぶりの上昇。新規求人倍率(季節調整値)は、2.07倍(同+0.18ポイント)と2か月連続の上昇(図表6)。
- 7月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+4.7%と3か月ぶりの増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+12.5%)では、生産用機械(同▲36.0%)や電子部品・デバイス(同▲18.0%)などが減少した一方、輸送機械(同+47.9%)や化学(同+114.3%)が増加。非製造業では、卸売、小売業(同▲13.9%)などが減少した一方、サービス業(同+26.8%)や医療、福祉(同+10.6%)が増加。
- 6月の所定外労働時間指数は、前年比+4.1%と増加。名目賃金指数(同+8.8%)は3か月連続、きまって支給する給与(同+3.6%)は12か月連続の上昇(図表8)。

《見通し》

- 所得については、収益環境が悪化している中小企業で慎重な賃金設定スタンスが維持されるものの、足元の実質賃金は上昇に転じており、物価高を踏まえたベアの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて今後も幅広い業種で賃金上昇が期待される。
- 東海財務局津財務事務所が発表した2024年7～9月期の法人企業景気予測調査によると、従業員判断BSI(「不足気味」-「過剰気味」)は、全産業で40.7%ポイントの「不足気味」超となっており、中長期的な人手不足への懸念から雇用を確保する動きが続くなか、雇用情勢の更なる改善が期待できる。なお、世界経済の減速や原材料価格高騰による生産調整などの影響には注視が必要。

◆7月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率 1.16倍
前月差 +0.01ポイント (20か月ぶりの上昇)
- 新規求人倍率 2.07倍
前月差 +0.18ポイント (2か月連続の上昇)

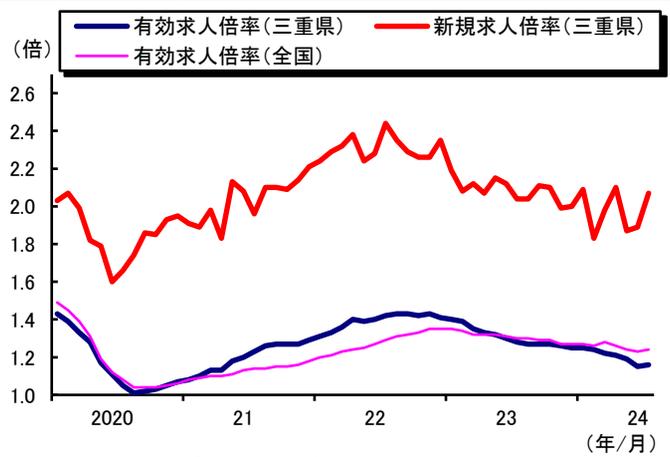
◆7月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 +4.7% (3か月ぶりの増加)

◆6月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

- 所定外労働時間指数
前年比 +4.1% (24か月ぶりの上昇)
- 名目賃金指数
前年比 +8.8% (3か月連続の上昇)
- ・きまって支給する給与
前年比 +3.6% (12か月連続の上昇)

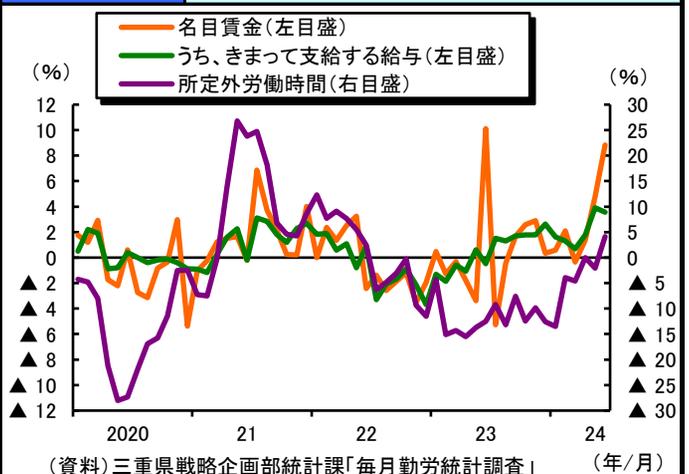
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	水準評価		⇒	詳細	持ち直しの兆し
	基調判断	前月比較			
<p> 《現状》 ○企業の生産活動は、持ち直しの兆し。 ○7月の鉱工業生産指数は、前年比+7.3%と2か月ぶりの上昇(図表9)。業種別にみると、汎用・生産用・業務用機械工業(同▲29.4%)などが低下した一方、電子部品・デバイス工業(同+84.5%)や輸送機械工業(同+12.2%)などが上昇した。 </p> <p> 《見通し》 ○先行き生産は、持ち直しの傾向となる見通し。 ○電子部品・デバイスは、キオクシアが7月から四日市工場でデータ保存量を大幅に高めた最先端メモリーの量産を開始。同社はウェスタンデジタルと組み先端品の量産に向けて7,290億円を投じることを計画しており、半導体市況の改善も踏まえて今後は堅調に推移していく見通し。 </p>					
<p> ◆7月 鉱工業生産指数<2020年=100> ○ 107.4 前年比 +7.3% (2か月ぶりの上昇) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 ▲29.4% (11か月連続の低下) ・電子部品・デバイス工業 前年比 +84.5% (5か月連続の上昇) ・輸送機械工業 前年比 +12.2% (4か月連続の上昇) ・化学工業 前年比 +1.8% (6か月ぶりの上昇) </p>			<p> 図表9 鉱工業生産指数<前年比> </p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」 (年/月)</p>		

企業倒産	水準評価		⇒	詳細	悪化しつつある
	基調判断	前月比較			
<p> 《現状》 ○企業倒産は、悪化しつつある。 ○8月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は18件(前年比+14件)と3か月ぶりの大幅な上昇。負債総額は2,024百万円(同+1,874百万円)と2か月連続の上昇(図表10)。 </p> <p> 《見通し》 ○「ゼロゼロ融資」利用後の倒産は、2023年1月開始の「コロナ借換保証」など、金融機関の柔軟なリスク対応によって減少の動きも見られる一方、支援策の副作用で生じた過剰債務など、根本的な問題は解消していない点に留意が必要。物価高や人件費の上昇などコスト負担が増加しており、収益悪化が続くと企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。 </p>					
<p> ◆8月 企業倒産 ○ 倒産件数 18件 前年比 +14件 (3か月ぶりの増加) ○ 負債総額 2,024百万円 前年比 +1,874百万円 (2か月連続の増加) </p>			<p> 図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上> </p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店 (年/月)</p>		

設備投資	水準評価		☁		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しの兆し
<p>◀現状▶</p> <p>○企業の設備投資は、持ち直しの兆し。</p> <p>○7月の民間非居住建築物着工床面積は、64千㎡(前年比+40.0%)と前年比で2か月ぶりの増加。8月の貨物車登録台数(除く軽)は、395台(同▲7.9%)と前年比で2か月ぶりの減少(図表11)。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○国内市場向けのカーナビゲーションシステムを手掛けるパナソニックオートモーティブシステムズは8月1日に三重県松阪市で生産拠点を新設したと発表。新拠点は敷地面積4.9万平米、建屋の延べ床面積は2.7万平米で従業員は100名。今後、同施設に生産を集約することを検討。</p>					
<p>◆7月 民間非居住建築物着工床面積</p> <p>○ 64千㎡ 前年比 +40.0% (2か月ぶりの増加)</p> <p>◆8月 貨物車登録台数</p> <p>○ 395台 前年比 ▲7.9% (2か月ぶりの減少)</p>			<p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」</p>		

4. 個別部門の動向:海外部門

輸出	水準評価		☀☁		
	基調判断	前月比較	↘	詳細	概ね横這い
<p>◀現状▶</p> <p>○輸出は、概ね横這い。</p> <p>○8月の四日市港通関輸出額は、854億円(前年比▲2.8%)となり、前年比で13か月ぶりの減少(図表12)。品目別にみると、有機化合物(同+28.8%)や乗用車(同+18.8%)、自動車の部分品(同+1.9%)などが増加した一方、石油製品(同▲82.4%)が大幅に減少。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○海外経済の減速が懸念されることや為替面で円安修正の動きがみられることなど、今後の輸出は持ち直しのペースが鈍化する可能性も。</p>					
<p>◆8月 四日市港通関輸出額</p> <p>○ 854億円 前年比 ▲2.8% (13か月ぶりの減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油製品 19億円 前年比 ▲82.4% (3か月連続の減少) ・有機化合物 79億円 前年比 +28.8% (4か月連続の増加) ・電気回路等の機器 74億円 前年比 ▲11.6% (2か月ぶりの減少) ・乗用車 104億円 前年比 +18.8% (4か月ぶりの増加) ・自動車の部分品 74億円 前年比 +1.9% (2か月連続の増加) ・科学光学機器 4億円 前年比 ▲15.1% (6か月連続の減少) 			<p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>		

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	水準評価		⇒	詳細	持ち直しつつある
	基調判断	前月比較			
<p>◀現状▶ ○公共投資は、持ち直しつつある。 ○8月の公共工事請負状況をみると、請負件数は325件(前年比▲14.0%)と2か月ぶりの減少。請負金額は189億円(同▲0.4%)と5か月ぶりに減少(図表13)。請負金額を発注者別にみると、国(+66.5%)、独立行政法人等(同+168.4%)、市町(同+24.2%)が増加した一方、県(▲12.2%)、その他(▲94.6%)が減少。</p> <p>◀見通し▶ ○三重県議会は6月28日に一般会計を29億円増額する2024年度補正予算案を可決。能登半島地震の被災地支援活動などを通じて得た知見を生かし、災害時の通信途絶を想定して衛星通信機器を整備するほか、被災地で職員の活動拠点として活用する車両を導入する。</p>					
<p>◆8月 公共投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共工事請負件数 325件 前年比 ▲14.0% (2か月ぶりの減少) ○公共工事請負金額 189億円 前年比 ▲0.4% (5か月ぶりの減少) 			<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>		

6. 個別部門の動向:その他

物価	水準評価		⇒	詳細	上昇している
	基調判断	前月比較			
<p>◀現状▶ ○物価は、上昇している。 ○8月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+2.5%と31か月連続の上昇(図表14)。生鮮食品を除く食料(同+3.0%)や光熱・水道(同+13.2%)など、多くの項目で上昇。</p> <p>◀見通し▶ ○エネルギー価格上昇の影響や企業の価格転嫁が想定を上回る水準で進んでおり、今後も消費者物価は上昇が続く見通し。政府の物価高対策による電気代・ガス代の負担軽減措置が2024年5月の使用分までで終了したことに加え、政府による省エネ賦課金の上昇によるエネルギー価格の上昇が押し上げに寄与していく見通し。</p>					
<p>◆8月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 108.0 前年比 +2.5% (31か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +3.0% (37か月連続の上昇) ・住居 前年比 ▲0.4% (2か月連続の下落) ・光熱・水道 前年比 +13.2% (4か月連続の上昇) ・交通・通信 前年比 +0.0% (横這い) ・教養娯楽 前年比 +6.3% (20か月連続の上昇) 			<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>		

県内経済



トピックス

(2024年8月)

1. 「南海トラフ地震臨時情報」の発令を受け県が災害対策本部会議

- 8月8日、日向灘を震源とする地震発生に伴い「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたことを受け、三重県は関係部局の幹部らを集めた災害対策本部会議を開催。
- 本部長の一見知事は「初動対応に遅れが生じないように万全の備えをして欲しい」と述べ、正確で迅速な情報提供などを指示。
- 三重県が2014年3月に実施した被害想定調査結果では、同地震による県内の死者は最大で5.3万人、全壊や焼失による被害家屋は24.8万棟に上ると想定されている。

2. 「全国高校生ガストロノミー甲子園が多気町のヴィンソンで開催

- 8月20日、料理コンテスト「全国高校生ガストロノミー甲子園」が三重県多気町の商業リゾート施設「ヴィンソン」で初開催された。
- ガストロノミーとは食事と文化の関係を考える美食学を意味しており、本大会は多気町とヴィンソン多気、三重テレビ放送で構成される実行委員会が主催。
- 大会には全国から選抜された8校が参加し、「伊勢まだい」をメイン食材として料理に腕をふるった。三重県立相可高校が優勝し、同校の2名が副賞でスペインのサンセバスチャン市へ料理研修に行くこととなった。

3. 松阪市の宝塚一号墳出土埴輪が国宝に指定

- 8月27日、松阪市文化財センターが所蔵する「三重県宝塚一号墳出土埴輪」278点が一括して官報告示で国宝(考古資料)に指定された。
- 内訳は船形1点、冪形3点、冪形4点のほか、埴輪残欠262点、土器・土製品8点で、国宝指定は松阪市で初、三重県内でも7件目。
- 宝塚一号墳は5世紀初めに造られ、場所は松阪市宝塚町・光町にある。古墳公園を整備しようと1999年から2003年に発掘し、船形埴輪などが発見された。

(出典)伊勢新聞

景気指標

三十三総研
2024/9/30

<三重県>

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2022年	2023年	2023年		2024年		2024年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	7月	8月
大型小売店販売額(全店)	(0.7)	(1.1)	(2.3)	(0.9)	(2.2)	(0.1)	(▲ 0.6)	(▲ 1.4)	(2.2)	(▲ 2.1)	
同 (既存店)	(1.0)	(0.0)	(0.9)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(▲ 0.7)	(▲ 1.9)	(2.9)	(▲ 1.4)	
新車販売台数(軽を除く、台)	48,182 (▲ 7.3)	54,820 (13.8)	13,377 (17.1)	13,454 (10.4)	13,618 (▲ 15.8)	11,890 (0.5)	3,790 (▲ 0.6)	3,638 (1.8)	4,462 (0.5)	4,856 (10.2)	3,687 (▲ 7.2)
うち乗用車販売台数(台)	42,059 (▲ 7.6)	48,492 (15.3)	11,726 (16.3)	11,858 (12.0)	12,273 (▲ 15.3)	10,576 (1.6)	3,398 (▲ 0.4)	3,224 (2.8)	3,954 (2.4)	4,259 (9.0)	3,221 (▲ 7.3)
新車軽自動車販売台数(台)	37,926 (3.1)	39,708 (4.7)	9,054 (▲ 0.8)	10,136 (2.2)	8,743 (▲ 26.4)	7,645 (▲ 11.5)	2,392 (▲ 20.3)	2,363 (▲ 14.2)	2,890 (0.2)	3,251 (19.0)	2,676 (▲ 2.5)
うち乗用車販売台数(台)	28,780 (0.2)	31,028 (7.8)	7,069 (3.9)	7,792 (4.1)	7,176 (▲ 23.9)	5,852 (▲ 13.1)	1,824 (▲ 18.8)	1,826 (▲ 15.8)	2,202 (▲ 5.1)	2,619 (20.5)	2,062 (▲ 1.7)
新設住宅着工戸数(戸)	9,912 (▲ 2.9)	9,224 (▲ 6.9)	2,543 (▲ 12.6)	2,091 (▲ 3.1)	1,893 (▲ 16.2)	1,959 (▲ 16.0)	610 (▲ 15.9)	674 (▲ 12.2)	675 (▲ 19.5)	732 (▲ 2.7)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	6,945 (34.1)	7,176 (3.3)	1,880 (▲ 0.7)	1,971 (▲ 4.3)	2,008 (13.7)	2,061 (32.1)	714 (36.7)	742 (30.6)	606 (28.8)		
有効求人倍率(季調済)	1.39	1.31	1.27	1.26	1.24	1.18	1.21	1.19	1.15	1.16	
新規求人倍率(季調済)	2.30	2.08	2.06	2.03	1.96	1.95	2.10	1.87	1.89	2.07	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	86,008 (13.5)	78,847 (▲ 8.3)	19,497 (▲ 9.2)	19,124 (▲ 10.1)	19,576 (▲ 6.8)	18,166 (▲ 5.5)	6,561 (3.8)	5,799 (▲ 6.3)	5,806 (▲ 13.6)	6,624 (4.7)	
名目賃金指数(調査産業計)	(▲ 0.7)	(0.6)	(▲ 1.9)	(1.6)	(0.8)	(5.7)	(1.4)	(4.8)	(8.8)		
実質賃金指数(同)	(▲ 3.7)	(▲ 2.7)	(▲ 4.9)	(▲ 0.7)	(▲ 1.5)	(2.4)	(▲ 1.2)	(1.5)	(5.3)		
所定外労働時間(同)	(0.5)	(▲ 11.7)	(▲ 9.9)	(▲ 11.6)	(▲ 7.5)	(0.7)	(0.0)	(▲ 2.1)	(4.1)		
常用雇用指数(同)	(▲ 1.1)	(2.6)	(2.1)	(1.2)	(3.5)	(1.7)	(1.7)	(1.6)	(1.7)		
鉱工業生産指数	(0.7)	(▲ 5.1)	(▲ 8.2)	(0.1)	(▲ 8.1)	(5.2)	(3.7)	(15.7)	(▲ 2.5)	(7.3)	
	-	-	<▲ 1.0>	< 3.5>	<▲ 9.6>	< 13.8>	< 10.5>	< 12.9>	<▲ 11.4>	< 2.7>	
生産者製品在庫指数	(5.4)	(1.5)	(▲ 0.1)	(▲ 5.0)	(▲ 12.5)	(▲ 12.7)	(▲ 13.5)	(▲ 14.2)	(▲ 10.3)	(▲ 12.1)	
	-	-	<▲ 1.6>	<▲ 6.6>	<▲ 5.1>	<▲ 0.8>	<▲ 4.1>	< 2.2>	< 4.3>	<▲ 3.7>	
企業倒産件数(件)	65	130	31	38	30	31	10	12	9	12	18
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 7)	(65)	(17)	(16)	(▲ 9)	(9)	(7)	(5)	(▲ 3)	(▲ 4)	(14)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	787 (0.5)	553 (▲ 29.7)	108 (▲ 48.2)	116 (▲ 30.2)	144 (▲ 4.6)	112 (▲ 37.5)	23 (▲ 63.3)	59 (3.3)	30 (▲ 49.5)	64 (40.0)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,462,281	▲ 1,230,435	▲ 264,478	▲ 352,234	▲ 324,254	▲ 354,208	▲ 126,020	▲ 122,809	▲ 105,380	▲ 124,772	▲ 138,922
輸出(百万円)	1,103,427 (21.3)	1,124,612 (1.9)	294,930 (1.5)	342,401 (26.2)	275,805 (17.1)	293,700 (16.6)	106,255 (37.0)	93,069 (17.0)	94,376 (▲ 0.4)	93,599 (▲ 0.2)	90,478 (▲ 5.8)
四日市港 輸出(百万円)	1,053,981 (22.9)	1,075,841 (2.1)	280,751 (▲ 1.2)	333,378 (32.9)	275,750 (23.7)	277,985 (16.4)	101,160 (42.0)	87,965 (10.6)	88,860 (0.9)	93,598 (5.6)	85,381 (▲ 2.8)
輸入(百万円)	2,649,963 (65.0)	2,449,109 (▲ 7.6)	559,152 (▲ 30.2)	694,635 (5.3)	600,058 (▲ 8.6)	647,909 (20.2)	232,275 (14.7)	215,878 (31.8)	199,756 (15.8)	218,371 (31.1)	229,400 (18.3)
公共工事請負金額(億円)	1,916 (8.6)	1,844 (▲ 3.7)	563 (▲ 12.2)	334 (17.0)	436 (4.4)	649 (22.4)	268 (38.8)	110 (6.5)	271 (15.9)	194 (20.1)	189 (▲ 0.4)
津市消費者物価指数	(2.5)	(2.9)	(2.6)	(2.0)	(1.9)	(2.3)	(1.5)	(2.7)	(2.8)	(2.3)	(2.8)
同 (除く生鮮)	(2.3)	(2.7)	(2.4)	(1.7)	(1.8)	(1.9)	(1.2)	(2.2)	(2.4)	(2.1)	(2.5)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2022年	2023年	2023年		2024年		2024年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月	7月	8月
大型小売店販売額(全店)	(2.0)	(1.6)	(2.6)	(1.3)	(4.9)	(3.4)	(1.3)	(2.3)	(6.8)	(0.8)	
同 (既存店)	(1.7)	(1.0)	(1.9)	(0.9)	(4.7)	(4.0)	(1.9)	(2.7)	(7.5)	(1.2)	
新設住宅着工戸数(戸)	80,112 (▲ 0.5)	73,459 (▲ 8.3)	20,059 (▲ 0.6)	18,199 (▲ 10.1)	18,832 (9.7)	17,475 (▲ 3.1)	6,643 (3.2)	5,087 (2.5)	5,745 (2.7)	6,411 (3.1)	
有効求人倍率(季調済)	1.43	1.39	1.38	1.36	1.34	1.32	1.34	1.33	1.30	1.29	
新規求人倍率(季調済)	2.52	2.39	2.38	2.33	2.38	2.34	2.39	2.35	2.28	2.33	
鉱工業生産指数	(▲ 2.4)	(3.6)	(3.2)	(5.9)	(▲ 4.5)	(▲ 2.8)	(▲ 2.7)	(4.4)	(▲ 9.0)	(2.2)	
	-	-	<▲ 0.9>	< 2.6>	<▲ 7.8>	< 2.8>	<▲ 2.9>	< 10.5>	<▲ 7.7>	< 2.9>	
企業倒産件数(件)	534	799	190	216	196	209	58	89	62	94	73
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 4)	(265)	(48)	(74)	(▲ 7)	(19)	(5)	(25)	(▲ 11)	(27)	(21)
域内外国貿易 純輸出(億円)	67,171	88,899	26,019	27,057	23,461	24,173	8,280	6,384	9,509	9,400	6,979
輸出(億円)	190,724 (12.3)	212,571 (11.5)	56,261 (15.4)	59,918 (22.9)	52,957 (16.4)	55,687 (9.5)	19,614 (14.9)	16,769 (10.5)	19,304 (3.6)	20,856 (9.2)	17,523 (2.2)
輸入(億円)	123,553 (41.9)	123,672 (0.1)	30,242 (▲ 11.6)	32,862 (▲ 4.0)	29,496 (▲ 6.1)	31,513 (8.1)	11,334 (11.2)	10,385 (11.0)	9,794 (2.1)	11,456 (15.1)	10,545 (4.7)

各指標における直近の数値